

平成26年度国際シンポジウム

「戦間期の東アジアと漢学」

二〇世紀前半、特に社会主義やファシズムなど新たな潮流が世界史を動かした両大戦間（第一次世界大戦終結一九一九～第二次世界大戦勃発一九三九）を中心に、東アジア諸地域における『漢学』の諸相について検討する。

【日時】 二〇一五年二月二十一日（土）

【主催】 二松学舎大学東アジア学術総合研究所
日本漢文教育研究推進室

【共催】 興譲館高等学校

【後援】 テレビせとうち・山陽新聞

【会場】 興譲館高等学校

〒七二五-〇〇〇六

岡山県井原市西江原町二二五七-一

【プログラム】

第Ⅰ部 9:00～12:00

趣旨説明 町 泉寿郎（二松学舎大学 教授）

「京大支那学における日本儒学への視点」

中村 春作（広島大学 教授）

「吉川幸次郎と中国文学」

牧角 悦子（二松学舎大学 教授）

「20世紀初頭ベトナムにおける漢文教育をめぐって」

佐藤 トウイウェン（大阪大学大学院 特任研究員）

「戦間期の漢文教育—受験漢文の様相から」

江藤 茂博（二松学舎大学 教授）

「大谷光瑞の対外政策を支えた人物たち—中尾万三ほか」

川邊 雄大（二松学舎大学 非常勤講師）

第Ⅱ部 13:00～17:00

「1935年湯島聖堂復興記念儒道大会について」

朴 暎美（成均館大学校 研究教授）

「闇斎学の近代における展開—内田周平の朱子学研究をめぐって」

藤井 倫明（台湾師範大学 教授）

「陽明学会と大正期の漢学界」

町 泉寿郎（二松学舎大学 教授）

「日中韓三国の儒教と儒商研究」

木村 昌人（渋沢栄一記念財団 研究部長）

総合討論（司会進行：牧角悦子教授）

閉 会（興譲館高等学校 小谷彰吾校長、江藤茂博教授）

入場無料（申し込み不要）